

## 風

四組 今道周雄

榮師匠が亡くなり、はじめかけた歌詠を続ける意欲が無くなりかけていた矢先に友人が「伊勢物語 有原業平 恋と誠 高樹のぶ子著」を送ってくれた。これは同じ著者が書いた「小説伊勢物語 業平」の手引書のようなもので、真っ向から業平の歌を論じたものではない。刺激を受けて書き置いていた歌を「風」という題でまとめてみた。

窓枠に裂かれし風は声高に叫ぶがごとく闇に消えゆく

瑞雲寺梅の香運ぶ風に乗り友の石碑を訪れ参る

吹き荒ぶ風に抗いメジャー振る南相馬のテストフィールド

代田には光り輝き風抜ける五月なるべし荒田を歩む

金色の稲穂かき分け吹く風はその足跡を僅かに残す

浜離宮近きオフィス懐かしき浜風吹きし夏の夕暮れ

風渡る露天の湯壺に花は舞い湯は流れつつ時を刻める

以上